

# 第79回 日本栄養・食糧学会大会

## 持続可能なタンパク質生産の最前線:世界の潮流と日本の未来

5月24日(土)17:30~19:00

名古屋大学 東山キャンパス H会場 (ES館 2階 025)

人口減少が叫ばれる日本とは対照的に、世界の人口は増加を続け、食肉消費量は過去最高を記録。

2050年までに最大70%の増加が見込まれています(FAO,2018)。

人口増加・気候変動・食料安全保障・グローバルヘルスといった世界的課題が交錯する中、

持続可能なタンパク源の確立と、供給システムの移行は喫緊の課題です。

こうした中、**細胞から必要な食品原料や資源を生み出す「細胞農業」**は、サステナブルな食料供給の選択肢と

して世界的に注目を集め、植物・発酵・動物細胞による新たなタンパク質の生産技術へ

今後の食の選択肢として大きな期待を寄せられています。

本プログラムのパネルディスカッションでは、国内研究を牽引してきた研究者たちが登壇。

最前線の研究から、社会実装へのロードマップまで、ざっくばらんに語り合います。

### キーワード

植物細胞農業、培養肉、細胞性食品、細胞株、  
光合成、微生物、共培養、成長因子、細胞増殖  
培養システム、培養上清液

共同研究  
共創



内閣府ムーンショット型農林水産研究開発事業（管理法人:生研支援センター）により実施された研究成果です  
写真提供：東京女子医科大学

### 登壇者

清水達也

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 所長・教授  
日本培養食料学会 代表理事

五十嵐圭介

東北大学大学院 農学研究科 助教  
日本細胞農業協会 代表理事

岡田健成 日本細胞農業協会 理事

洪 貴美子

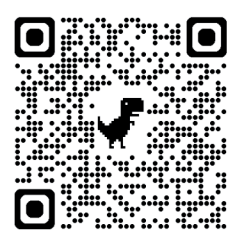
(一社)The Good Food Institute Japan  
マネージングディレクター

池田大介

北里大学海洋生命科学部  
応用生物化学講座 准教授



日本



GFI Japan サイト

日本培養食料学会



CAICサイト



Cellular Agriculture  
Institute of the Commons

共同開催パートナー